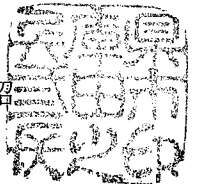


三 道 第 236 号

平成20年10月17日

国土交通省道路局長 様

三田市長 竹 内 英 昭



今後の道路行政についての意見・提案について（提出）

平素は、本市の道路事業の整備促進とその為の事業費の確保に対しまして、ご理解ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、平成20年9月19日付け国道企第37号で依頼のありました標記の件につきましては、別紙のとおり提出いたしますので、よろしくお願い申し上げます。

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

兵庫県三田市

道路は、国民生活や経済・社会活動を支える最も基本的な社会資本施設であり、道路網の整備促進は広域的な地域間の連携や文化交流を促進するとともに、円滑な交通の確保や物流輸送の効率化等のために欠かすことの出来ないものである。

経済情勢が厳しい状況で、公共投資のあり方が問われているが、国民一人一人が豊かな暮らし、安全安心な地域づくりを進めるためにも生活の基盤である道路を計画的に整備することが重要である。

また、少子・高齢化が進展する中で、活力ある地域づくりを推進し、経済や生活の基盤を確立するとともに、次世代に誇ることのできる地域を整備するためにも、その根幹たる道路整備を着実に推進することが必要不可欠である。

このことから、道路特定財源の一般財源化が議論されている中で、国民が期待する道路整備を計画的かつ着実に進めるため、道路利用者の理解を得ながら、地方道路整備臨時交付金の維持またはそれに準じる制度の創設など地方が継続的に道路の整備や維持管理を進めることができる財源を安定的に確保し、道路整備のより一層の推進が図れるように要望します。

②－１ 地域の現状と抱える課題

兵庫県三田市

○現状

三田市は兵庫県南東部に位置し、神戸市の市街地から北へ約 25 km、大阪市から北西に約 35 km の圏域にあり、JR 福知山線、神戸電鉄、六甲北有料道路などの広域交通網により、大阪市、神戸市などと連絡しているとともに中国自動車道、舞鶴若狭自動車道により播磨・中国方面や丹波・但馬方面などとも結ばれており、広域交通ネットワークの要衝となっている。

市域は東西約 19 km、南北約 18 km、総面積 210.22 km² を有している。北西から南東に二級河川武庫川が市域を貫流し、武庫川とその支線沿いに農用地帯を形成し、南端に中心市街地を形成されている。また、南西部の丘陵地帯には、北摂三田ニュータウンや新興住宅地の整備が進み、新たな市街地が形成されている。

○課題

三田市は大都市近郊に位置し、その地理的条件と豊かな自然環境を生かし、北摂・北神、丹波及びその周辺地域で構成する内陸都市圏の中核都市として急速に都市化の進展を続けており、さらに広域交通の結節点に位置するため、自動車交通量は増加の一途を辿っている。

このような中、国道 176 号を基軸として、主要地方道 7 路線、一般県道 15 路線の道路網は、市民の生活にとって重要で欠くことのできない道路である。広い市域を網羅するように延び、その延長が約 615 km にも及ぶ市道についても、未改良区間が多く、特に都市計画道路を始めとする幹線道路網の整備が課題となっている。

また、急激な高齢化社会への対応や身体障害者等との共生を図るためのバリアフリー化や小中学生の安全な通学路の確保等交通弱者である歩行者の安全を確保するため、歩道等交通安全施設の整備が求められている。主要交差点については休日や朝夕のラッシュ時間帯には、渋滞が発生していることから混雑解消のため、付加車線の設置等の交差点改良にも積極的に取り組んでいく必要がある。

②－２地域の目指すべき将来像

兵庫県三田市

三田市では、「心のふれあう田園文化都市」基本目標に掲げ、ニュータウン建設と地域社会との調和を前提に、自然を生かしたよりよい環境のもとで、市民が安心して住み、学び、憩うことができるまちづくりを目指してきました。

そして、今日の社会の新たな潮流や市の地域特性などを踏まえつつ、これまですすめてきたまちづくりの成果と多様な資源を生かしながら、すべての市民が誇りと愛着得をもって、豊かな生活を送っていけるように、自立的な地域経済の活力を基盤として、年齢や生活背景等の異なる人々の価値観が尊重され、美しい自然や魅力ある歴史や文化、温かいコミュニティなどが、人々に豊かな生きがいや安らぎを与えるとともに、快適で安心・安全な暮らしが享受できるような協働社会を目指しています。

とりわけ道路行政については、歴史や文化、産業など市内に豊かにある潜在的な資源を有効に活用され、多様性に満ちた圏域を形成するためには、市内を連携するネットワークを形成させる必要があります。移動環境を整えることで各地区は相互に機能を補完し合いながら、相乗的に市域全体としての魅力を高めていくことにつながります。

また、美しい景観など自然の恩恵を享受する一方で、自然のもつ脅威という側面も考慮し、市内を円滑に連絡する防災のネットワークを形成するとともに、ユニバーサルデザインの理念に基づいた交通環境を整備することで、安全安心なまちづくりを進めることができ、次に示す道路ネットワークの形成を図る。

・道路ネットワークの形成

①広域連絡道路の整備

広域での都市活動の展開を支える近畿自動車道敦賀線や名古屋神戸線等の整備を促進する。

②幹線道路の整備

1)ラダーパターン道路網

住居や商業・業務、学術研究など各種機能を有した市街地を中心に、市民生活や産業活動の効率的な展開を支えるため、都市拠点間や梯子状（ラダーパターン）に連絡する道路ネットワーク構造の形成を目指し、国道１７６号の整備や都市計画道路溝口須丸線の延伸を促進する。

2)放射状道路網

自然に囲まれた農村地域における生活利便性の向上や災害時の代替性を確保するため、ラダーパターン道路網と各地区間を放射状に連絡するネットワーク構造の形成を目指して、幹線道路の整備を促進する。

今後の道路行政についての意見・提案

③道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

様式 ④

兵庫県三田市

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
地域活力の向上	主要地方道三田西インター線道路改築事業 延長 900 m 幅員 15.5 m～14.5 m	○期待する効果や評価等 舞鶴若狭自動車道三田西インターと国道176号を結ぶ主要地方道三田西インターを改築することで、広域交通ネットワークの要衝となっている三田市にとって、広域ネットワークの円滑な利用が図られ、地域の活性化を促進することができる。	
都市交通の快適性、利便性の向上	都市計画道路高次線外1線道路改良事業 都市計画道路高次線 延長 220 m 幅員 18 m～21 m 駅前広場 5,500 m² 都市計画道路国道線 延長 195 m 幅員 16 m	三田駅前再開発事業の進捗に伴い、駅南側に集中する交通の分散化を図る必要があるため、駅北側を整備することにより交通の分散化が図れるとともに国道176号から三田駅へのアクセスルートとなり、都市交通の円滑化が図れる。	